

2 CO₂排出削減への取り組み

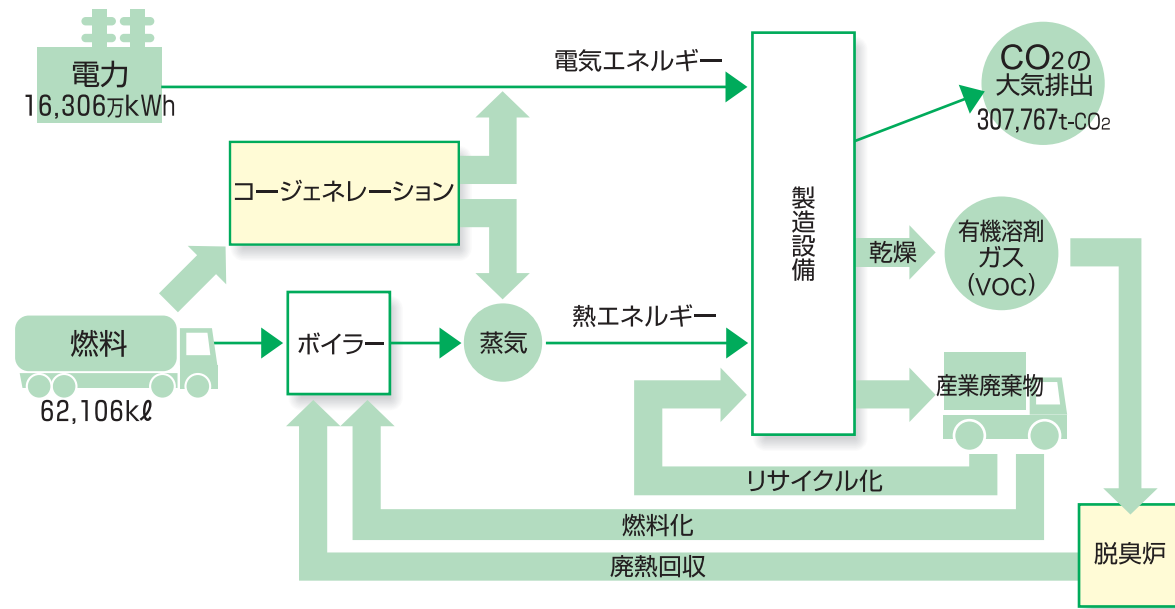
コージェネレーションによる省エネルギー

コージェネレーション(自家発電をしながら、そのときに出る廃熱を蒸気として回収する設備)は、CO₂の排出抑制と省エネルギーの有効な手段です。豊橋事業所では1999年にコージェネレーションの1号機を、2000年に2号機を設置。

これらが稼働したことによりCO₂の排出は減少し、エネルギー原単位も改善されました。

*2001年度版から電力消費・燃料消費に起因するCO₂発生量は「日本国政府「気候変動に関する国際連合枠組条約」に基づく日本国報告書(1994年)」の換算係数を使用し、脱臭炉・焼却炉に起因するCO₂発生量は分析データから算出しています。

エネルギーフロー



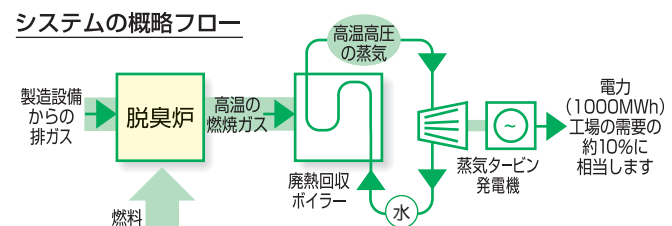
豊橋の新設備がNEDOの助成対象に

今年の7月に豊橋事業所に完成する脱臭炉廃熱利用ボイラータービン発電設備は、NEDO(新エネルギー産業技術総合開発機構)の先導的省エネルギー技術の助成を受けて導入するものです。廃熱利用ボイラーからの余剰蒸気を蒸気タービンにより電力に転換するシステム。負荷変動時の省エネ性にすぐれ、熱と電力の比率変動にも対応できるこの設備の稼働によって、豊橋事業所ではコージェネレーションと合わせて75%が自家発電で賄え、1カ月当たり原油換算で245klの省エネルギーが実現します。

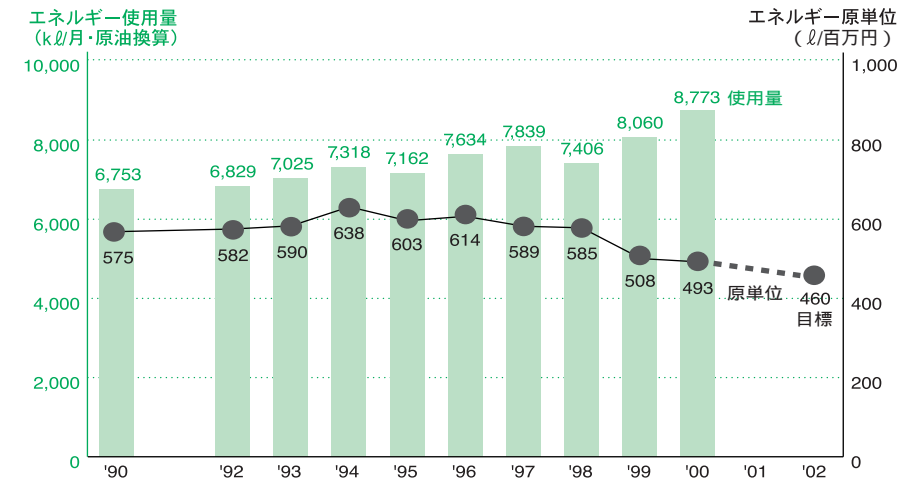


■電力を生み出す蒸気タービン

システムの概略フロー



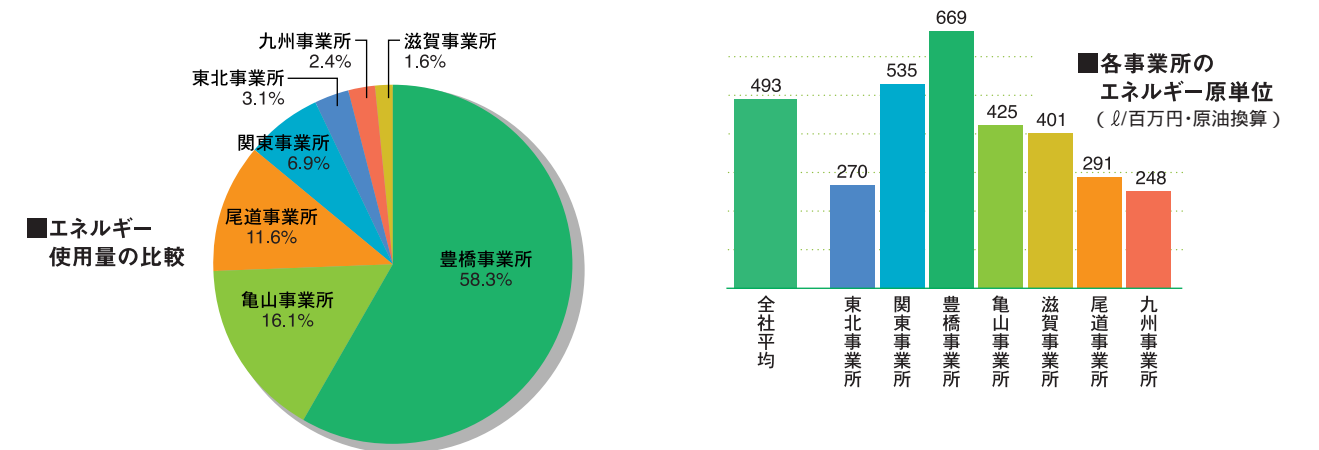
エネルギー使用量と原単位



豊橋事業所のコージェネレーション2号機の稼働開始のほかに、東北事業所の経皮吸収型テープ製剤など各事業所で高付加価値製品の生産が伸びたこともあり、原単位が改善されました。豊橋事業所で新しい脱臭炉廃熱利用ボイラータービン発電設備が稼働することから、2002年度目標は達成できる見通しです。

事業所ごとの比較 (2000年度)

東北、関東、亀山の3事業所は、豊橋事業所に続きコージェネレーションの導入を検討しています。



エネルギー使用とCO₂排出 (2000年度)

用途別では、昨年に比べて電力消費にともなう排出量の比率が約19%減少し、燃料消費による排出量が15%増加しています。これは主にコージェネレーションの導入によるものです。

